

第4節 園路整備

(1) 見学動線の設定

史跡の本質的価値や見どころを結んだ見学動線を設定する。訪れるたびに史跡の理解が進むように城郭構造や眺望、石垣、堀などテーマごとの見学動線を次のとおり設定する。

◆天守台コース（全行程：約0.8km／所要時間：約40分）

本丸の見学と天守台からの眺望に特化した見学時間があまりとれない人にお勧めのコース。天守台以外については、段差が少なく車いす利用者でも通行できるが、全体的に縦断勾配がきつく介助者の同行が必須である。中でも本丸中央の比高は約1.4mもあり、注意が必要である。

①五軒屋敷堀・蓮堀・鉄門 → ②内堀 → ③土橋・竹林門 → ④白沢門・極楽橋 → ⑤天守台

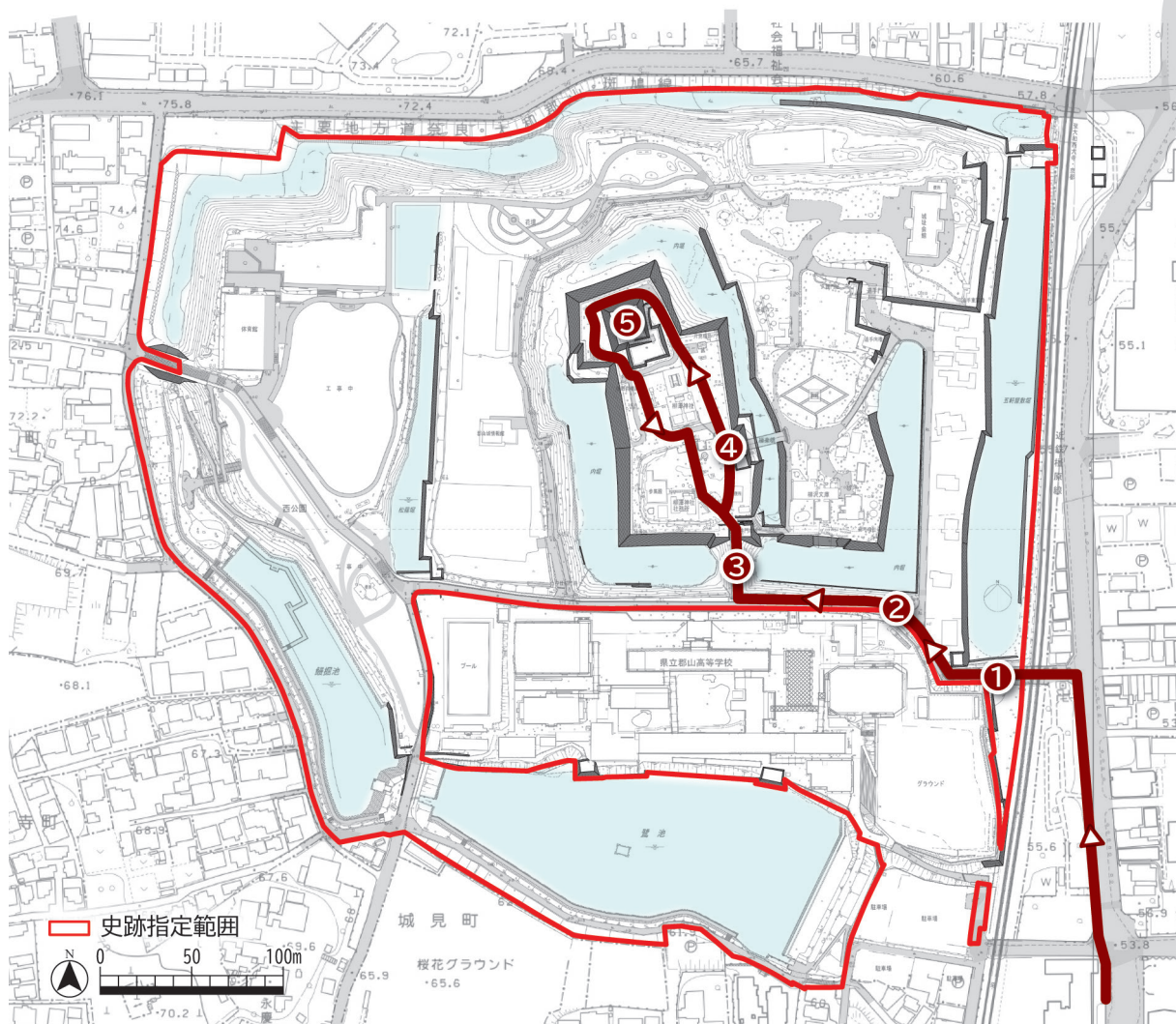


図 5-12 天守台コース経路図

(S=1/4,000)

◆内堀外周コース（全行程：約 1.7km / 所要時間：約 1 時間）

内堀の外側から毘沙門曲輪や本丸の石垣をめぐり、途中、東隅櫓や城址会館を經由して最後に本丸にいたるもので、史跡全体や城郭構造を理解したい人にお勧めのコース。全行程で段差は少ないが、全体的に縦断勾配がきつく、車いす利用者は介助者の同行が必須である。毘沙門曲輪内および常盤曲輪は未舗装のため、雨天時に車いす利用者が通行することは難しい。

①五軒屋敷堀・鉄門 → ②内堀 → ③追手門・追手向櫓 → ④東隅櫓・城址会館 → ⑤内堀 → ⑥郡山城情報館 → ⑦土橋・竹林門 → ⑧白沢門・極楽橋 → ⑨天守台

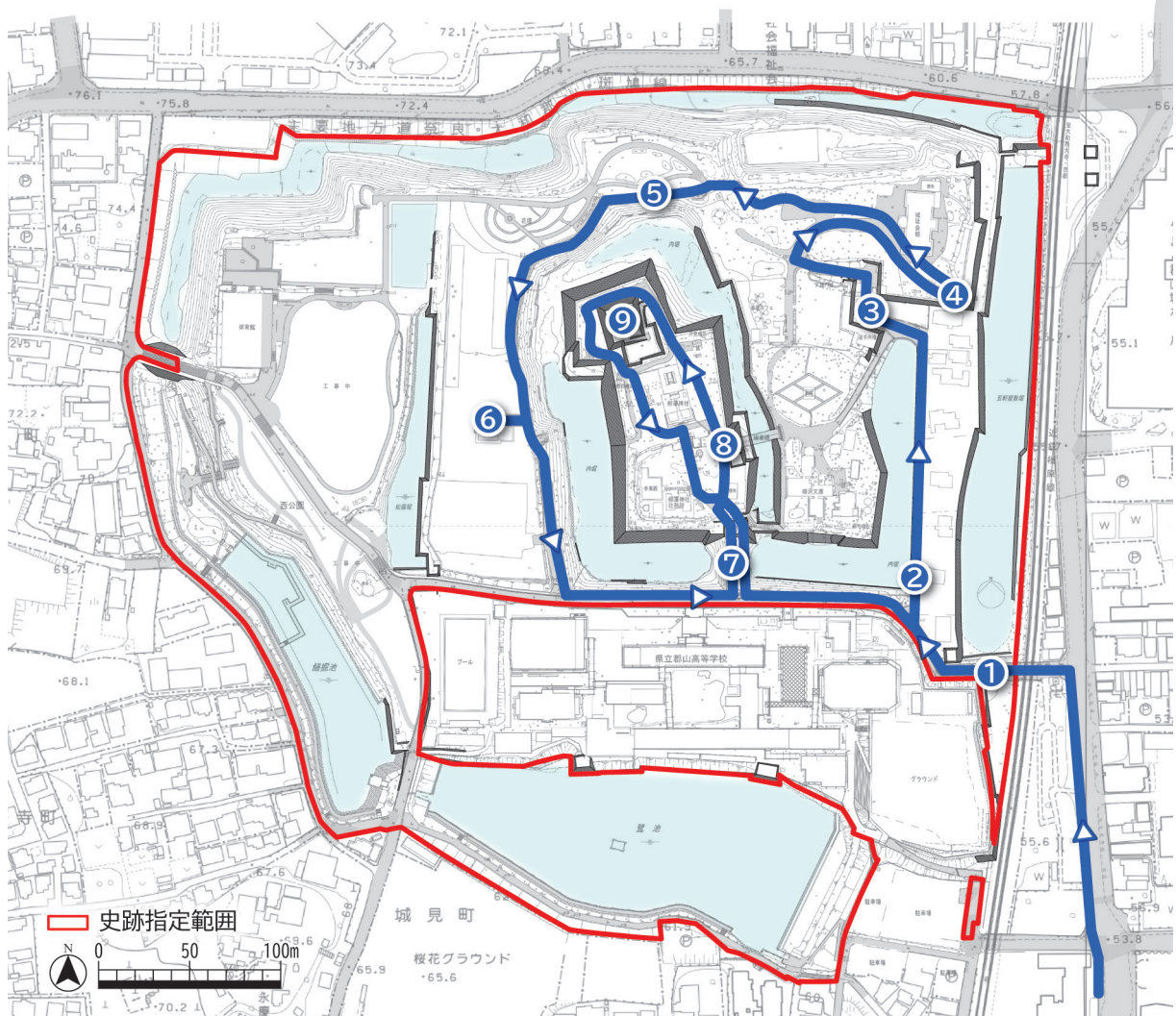


図 5-13 内堀外周コース経路図

(S=1/4,000)

◆石垣めぐりコース（全行程：約2.0km／所要時間：約1時間20分）

時代ごとで特徴が異なる石垣をめぐること、石垣構築技術の変遷が理解できるコース。毘沙門曲輪と本丸をつなぐ極楽橋の橋詰めには階段があることから、車いすを利用して本丸に入るには内堀の東側を大きく迂回する必要がある。全行程で段差は少ないが、全体的に縦断勾配がきつく、車いす利用者は介助者の同行が必須である。毘沙門曲輪および常盤曲輪内は未舗装のため、雨天時に車いす利用者が通行することは難しい。

①鉄門石垣（慶長～）→ ②毘沙門曲輪石垣（元和～寛永）→ ③追手門石垣（慶長～）→
→ ④本丸石垣（天正・文禄）→ ⑤白沢門石垣（天正～）→ ⑥天守台石垣（天正・慶長）→
→ ⑦竹林門石垣（天正～元禄）→ ⑧郡山城情報館 → ⑨松陰堀石垣（寛永～元禄）→
→ ⑩南門石垣（寛永～元禄）

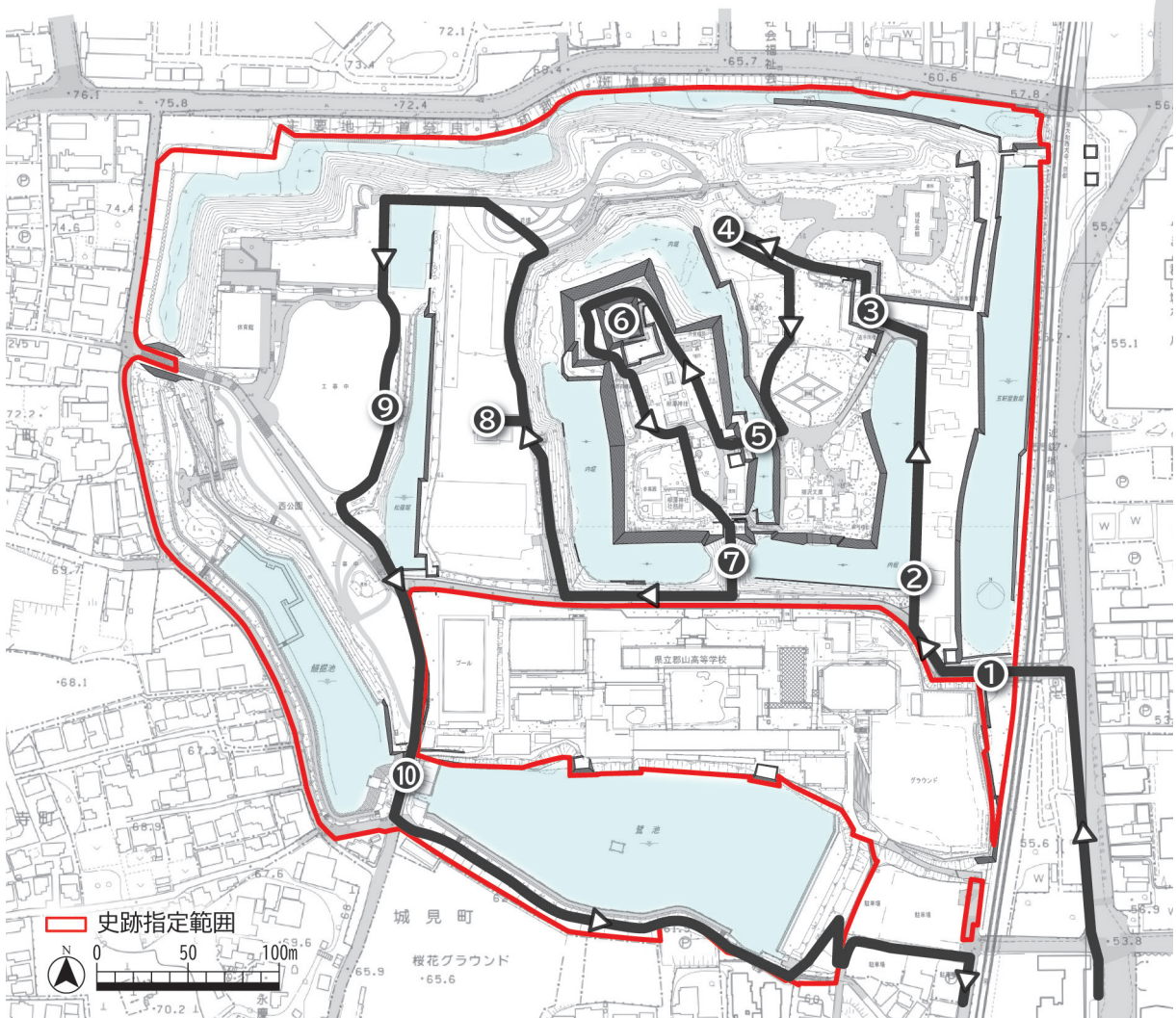


図 5-14 石垣めぐりコース経路図

(S=1/4,000)

◆堀めぐりコース（全行程：約3.0km 所要時間：約1時間35分）

内堀と全ての中堀をめぐるもので、城郭構造と規模を体感するコース。毘沙門曲輪部分は、石垣めぐりコースとおおむね重複することから、同様の課題が生じている。



①五軒屋敷堀 → ②桜門 → ③左京堀 → ④松陰堀 → ⑤内堀・天守台 → ⑥極楽橋・白沢門 →
→ ⑦天守台石垣（天正・慶長）→ ⑧竹林門・土橋 → ⑨南門石垣・鰻堀 → ⑩鷺堀

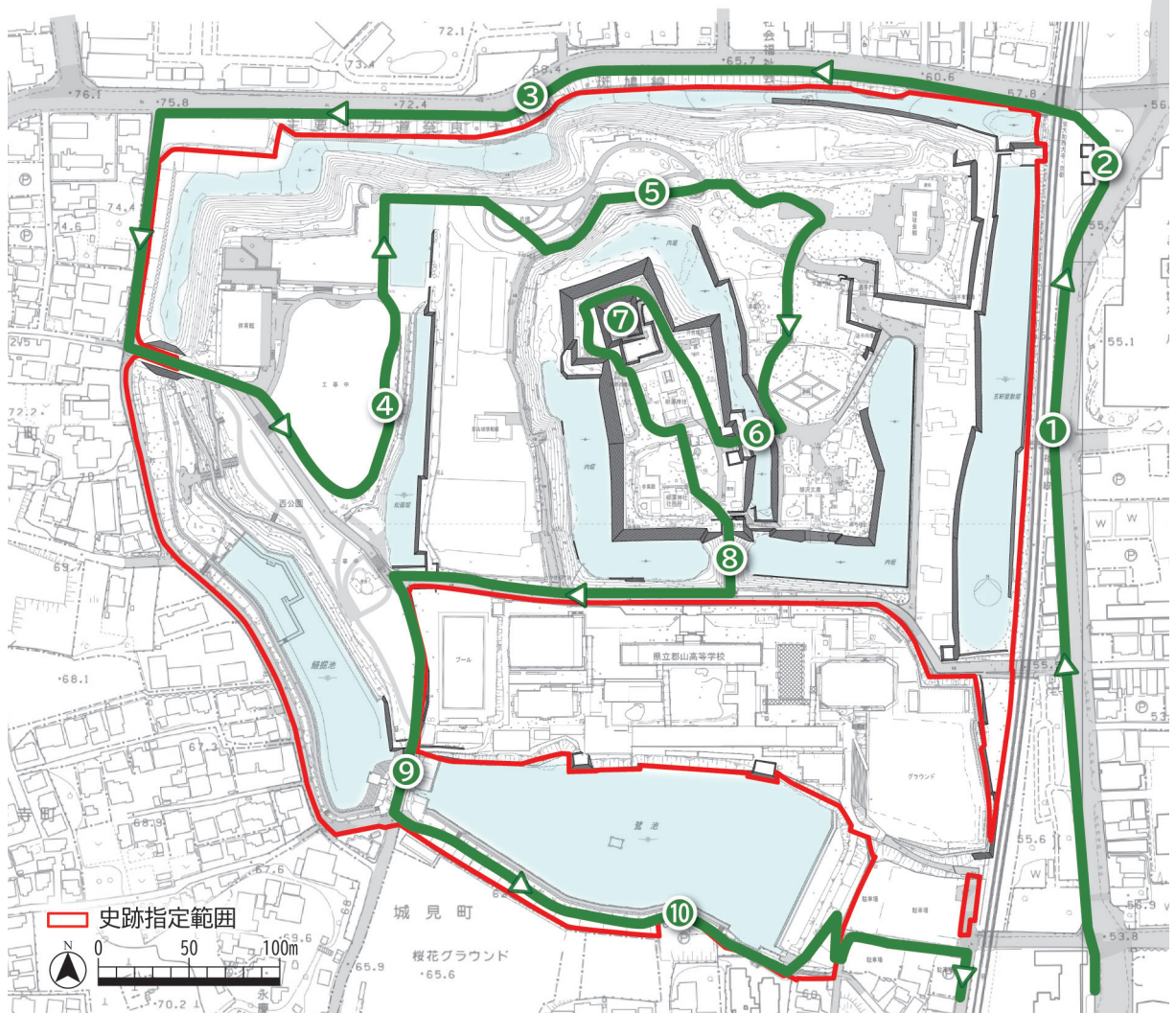


図 5-15 堀めぐりコース経路図

(S=1/4,000)

(2) 未舗装区間の路面整備

指定地内では、毘沙門曲輪および常盤曲輪を除いて、公園整備や天守台展望施設整備にて園路の路面は舗装にて整備されている。高齢者や車いす利用者が推奨コースを安心して利用できるように、舗装整備が遅れている地区の路面整備を進めていく。舗装の仕様は耐久性に優れ、歴史的景観になじむものとする。

(3) 本丸中央の比高解消

高齢者や車いす利用者が推奨コースを安心して利用できるように、本丸の中央付近にある段差部分にスロープの設置を検討する。土地所有者の理解を得るとともに、スロープが歴史的景観になじむよう大規模な施設とならない構造・仕様とする。

(4) 既存園路の更新

園路整備から時間が経過している区間については、路面の傷みが目立つようになってきている。今後とも利便性を維持していくため、破損状況に応じて路面の更新をおこなう。

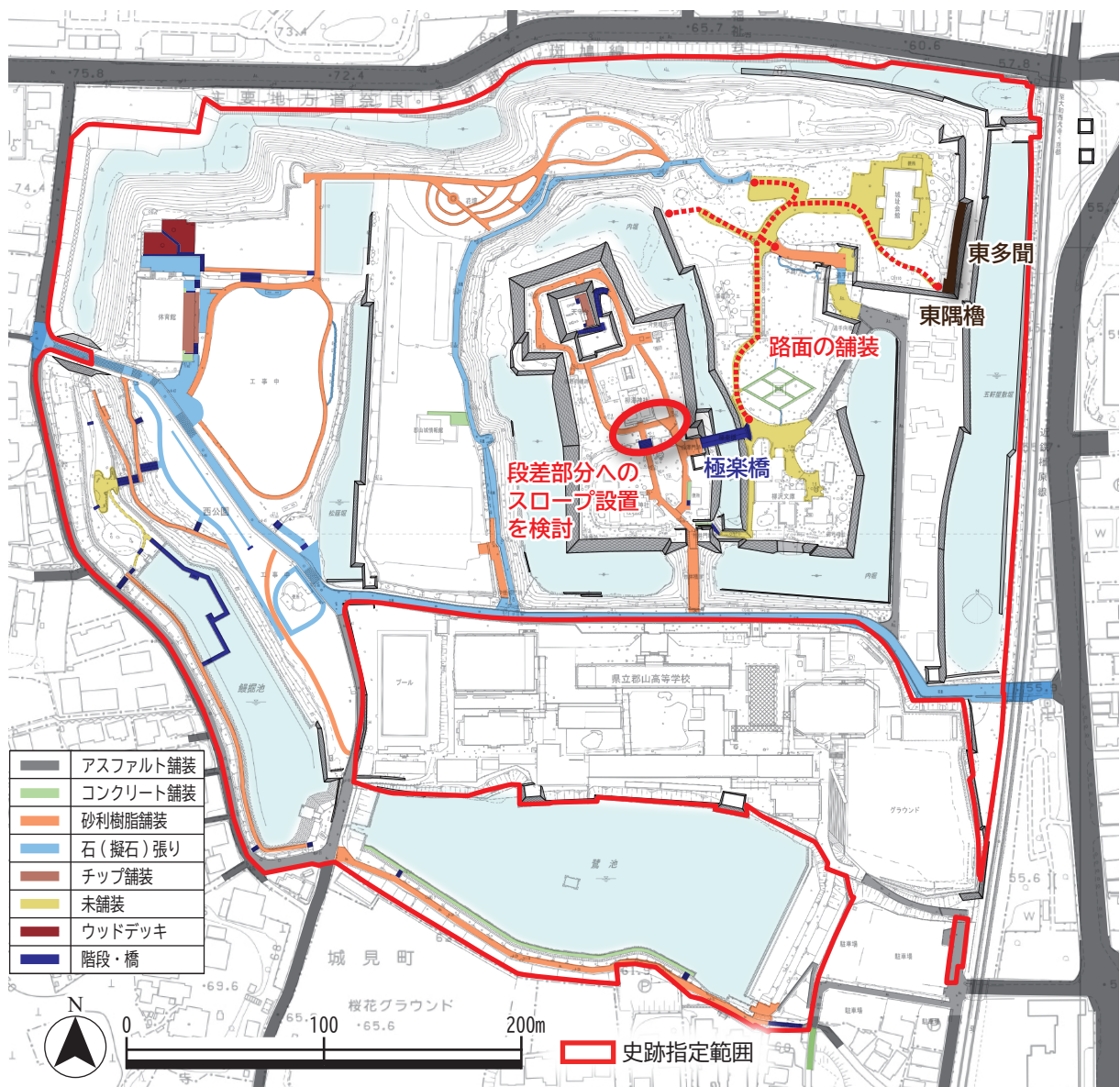


図 5-16 園路整備箇所

(S=1/3,500)

第5節 樹木整備

本計画期間において石垣や土坡（堀・土塁）の保存と視覚化を目的とした樹木の剪定や伐採を実施していく。樹木整備において留意すべき点としては、桜と松が本史跡における「本質的価値に準ずる価値を構成する要素」に区分されていることである。これらは遺構保存の妨げにならない範囲において、引き続き存置していくことが求められる。また、樹林は市街地における貴重な緑地景観を形成していることから、むやみに伐採していくことは望ましくない。

本計画期間内において、石垣と土坡（堀・土塁）の保存に支障となる樹木については、原則として伐採していく。また、石垣と堀を見せるための伐採は、整備による効果が最大限に発揮する範囲に絞り、桜と松を可能な限り存置する。

石垣や土坡（堀・土塁）の保存と視覚化のため、樹木の剪定や伐採をおこなう計画としているが、それでは徐々に樹木の数が減っていく。本史跡において桜や松、その他の樹木をどのように残していくのか示しておく必要がある。そこで本計画とは別に植栽管理方針を策定し、本質的価値の保存と視覚化、樹木整備を並行して実施していく。

第6節 案内・解説施設整備

大河ドラマ「豊臣兄弟！」の放送を機に多数の来訪者が見込まれることから、令和7年度に遺構を解説するサインを14基設置した。緑曲輪に整備された郡山城情報館に加え、郡山城跡の価値や魅力を発信するものとして常盤曲輪に再建した東多聞を活用して令和9年1月末まで展覧会を実施している。

今後は総合案内サインやホームページ、各種リーフレット等にて、本計画で設定した推奨コースを紹介するとともに、コースの分岐点に誘導サイン、視点場として環境整備する部分には解説サインの設置を検討する。

老朽化したサインは、更新する際に設置位置や周辺サインとの統廃合、意匠の統一を検討する。新たに設置するサインは、既存サインの意匠を踏襲し、耐久性の優れた仕様とする。解説内容の変更が想定されるサインについては、暫定的なもの、もしくは更新が容易な構造にすることを検討する。

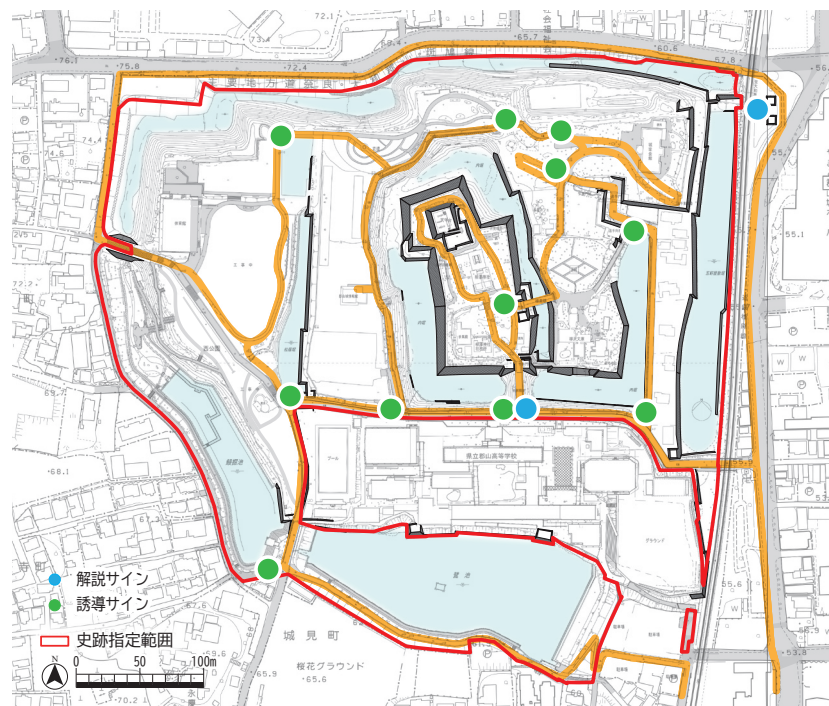


図 5-17 サイン整備箇所図

第7節 安全管理施設および休憩・便益施設整備

(1) 安全管理施設

計画対象範囲内の高所および水堀の縁辺部にはすでに柵が設置されていることから、今後は老朽化した柵の更新を順次おこなうものとする。更新する柵は歴史的景観になじみ、耐久性の優れた仕様とする。

工作物設置にともなう遺構への影響を考慮して、基礎は既存構造物の位置を可能な限り踏襲する。

	竹垣		コンクリート柵
	木柵		玉垣
	擬木柵		フェンス
	ロープ柵		ガードレール
	チェーン柵		生垣
	金属柵		

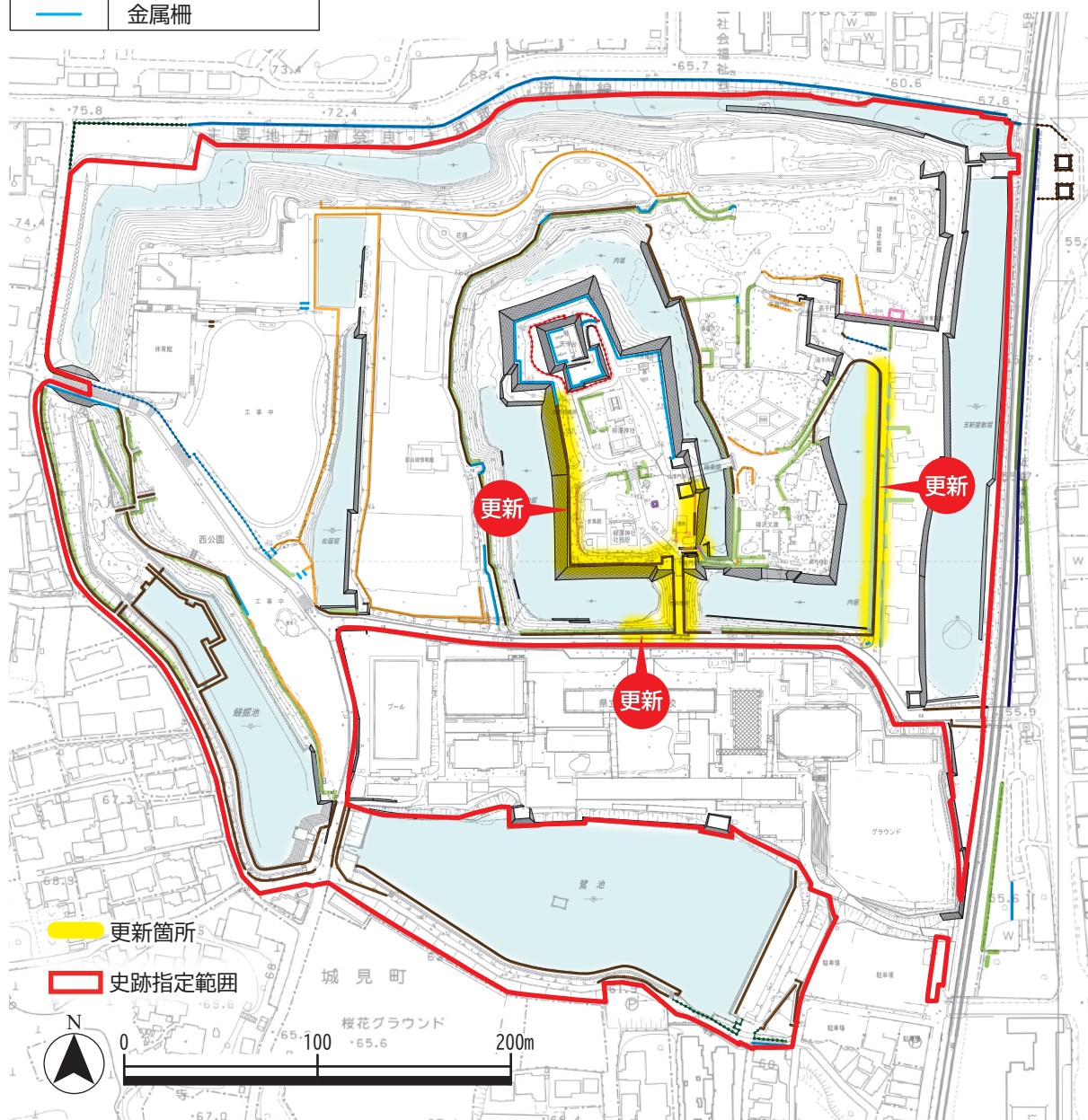


図 5-18 安全管理施設の更新箇所

(S=1/3,500)

(2) 休憩・便益施設

①休憩施設

ベンチは柵と同様に史跡指定地全体に整備されていることから、今後は老朽化した柵の更新を順次おこなうものとする。なお、老朽化したベンチは、更新する際に設置位置や周辺ベンチとの統廃合を検討する。新たに設置するベンチは、既存施設の意匠を踏襲して、耐久性の優れた仕様とする。

屋内型の休憩施設としては、緑曲輪の郡山城情報館と麒麟曲輪の体育館の1階部分の2箇所がある。いずれも近年整備されたものであることから、適切に維持管理していく。

②便益施設

史跡指定地内には無料のトイレが3箇所あり、本丸および緑曲輪に整備されたトイレは、設備も整っており、適切な維持管理のもと今後とも維持していく。麒麟曲輪南辺（西公園）のトイレも維持していくことから、必要に応じて設備の更新をおこなう。

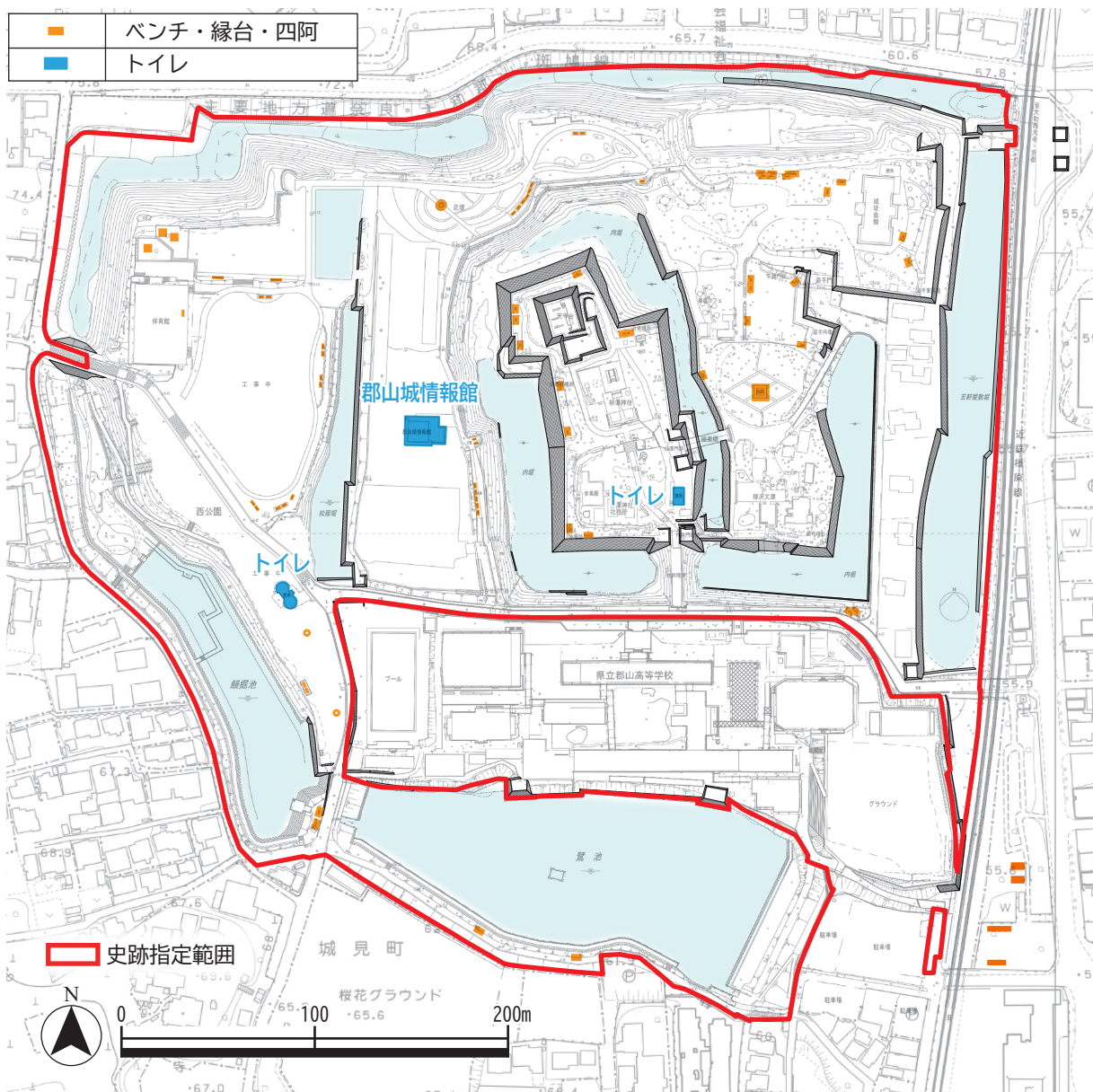


図 5-19 休憩・便益施設の配置

(S=1/3,500)